

目次

1	データベースサーバインストール	2
1	1 データベース(PostgreSQL)サーバインストール	2
2	2 データベースアクセス範囲の設定	5
3	3 Windows ファイアウォールの設定	7
4	4 データベース管理ツールのインストール	10
5	5 ユーザー（利用者）の登録	13
2	2 クライアント（報告書作成・様式編集）のインストール	15
1	1 クライアントプログラムのインストール	15
	新規に Version4 をインストールの場合	15
2	2 「消防くん」の起動とデータベースへの接続確認	17
3	3 消防くん データベース管理ツールの操作	19
1	1 データベース管理ツールの操作	19
1.1	1.1 データベース管理ツールの起動	19
1.2	1.2 消防くん用データベースの作成	19
1.3	1.3 データベースの削除	21
1.4	1.4 データベースの復元	22
1.5	1.5 データベースのバックアップ	24
1.6	1.6 ログイン情報のクリア	26
4	4 自動バックアップの設定方法	28
1	1 バックアップスクリプト「PsqlBackUp5.bat」の確認	28
1.1	1.1 「データベースバックアップスクリプト」とは	28
1.2	1.2 「PsqlBackUp5.bat」の確認	28
1.3	1.3 バッチファイルの起動確認	29
2	2 スケジュール登録	30
2.1	2.1 タスクスケジューラの追加	30
2.2	2.2 バックアップデータの復元	35

1 データベースサーバインストール

1 データベース(PostgreSQL)サーバインストール

本資料では、「消防くん for Windows」で使用する、データベースサーバの設定手順をご説明します。

・データベースのインストール

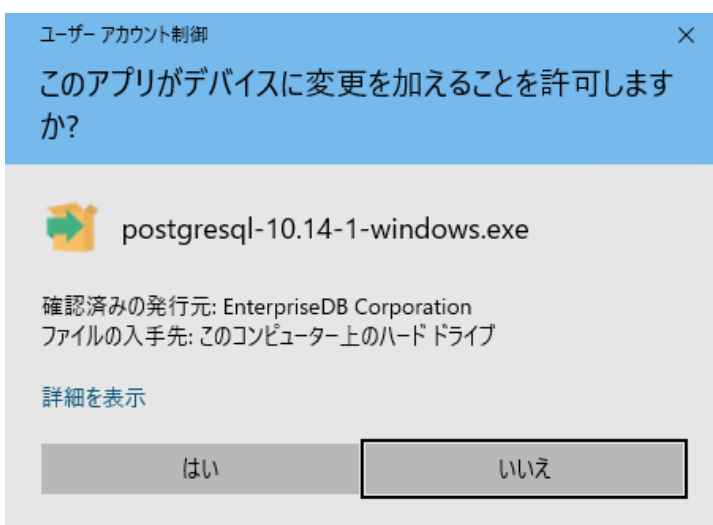
1. 「消防くん」の CD を挿入してください。
2. メニューが起動しない場合は、エクスプローラで CD の内容を表示し、CBOCD.EXE 実行ファイルをダブルクリックしてください。

名前	更新日時	種類	サイズ
 batch	2020/10/22 15:19	ファイル フォルダ	
 files	2020/10/22 15:19	ファイル フォルダ	
 Manual	2020/10/22 15:19	ファイル フォルダ	
 PDF	2020/10/22 15:20	ファイル フォルダ	
 PostgreSQL	2020/10/22 15:20	ファイル フォルダ	
 AUTORUN.INF	2020/10/22 15:19	セットアップ情報	1 KB
 CBOCD.EXE	2020/10/22 15:19	アプリケーション	278 KB
 CBOCD.INI	2020/10/22 15:21	構成設定	2 KB

3. メニューより、データベースサーバー(PostgreSQL)のインストールをクリックします。

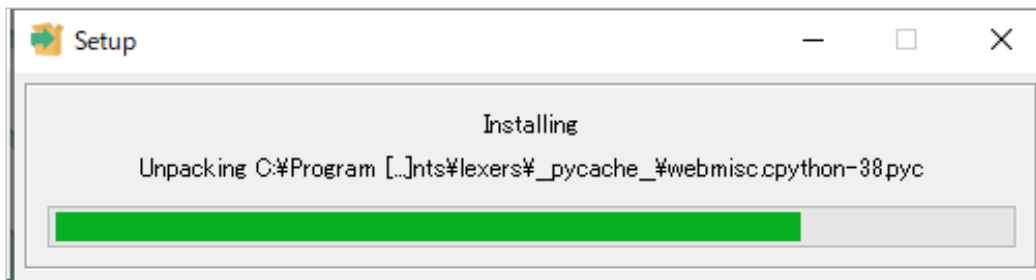


Windows のバージョンまたは設定によって、下記のような画面が表示されます。



「はい」をクリックして、インストールを開始してください。

データベースのインストール中は、下記のような進行状況が表示されます。



インストールには、状況により数分～十数分かかる場合があります。
画面が自動で閉じるまで、そのままお待ちください。

2 データベースアクセス範囲の設定

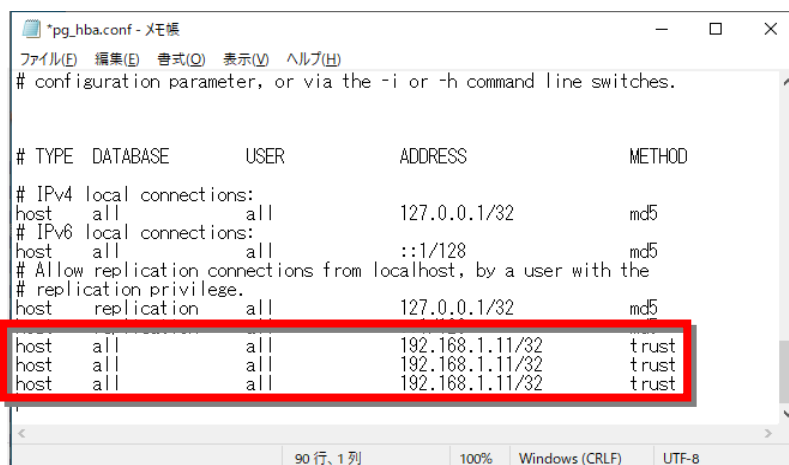
以降は、「消防くん Ver.4」を複数台でご利用いただく場合の設定です。

1. 「C:\Program Files (x86)\PostgreSQL\10\data」(※記述は 64bit 版 PC の C ドライブへ PostgreSQL10 をインストールした場合) フォルダの中の「pg_hba.conf」ファイルをメモ帳などのテキストエディタで開きます。

2. 接続範囲の追加をします。ファイルの一番下の行に設定を追加します。

データ型は「host」、データベースとユーザーについては「all」、方法については「trust」をそれぞれ記述します。

IP アドレス欄には、消防くんを利用するクライアント機の IP アドレスが固定されている場合は、その IP アドレス/32 と記述します。複数の場合はこの①作業を繰り返しおこないます。



```
# configuration parameter, or via the -i or -h command line switches.

# TYPE DATABASE USER ADDRESS METHOD
# IPv4 local connections:
host all all 127.0.0.1/32 md5
# IPv6 local connections:
host all all ::1/128 md5
# Allow replication connections from localhost, by a user with the
# replication privilege.
host replication all 127.0.0.1/32 md5
host all all 192.168.1.11/32 trust
host all all 192.168.1.11/32 trust
host all all 192.168.1.11/32 trust
```

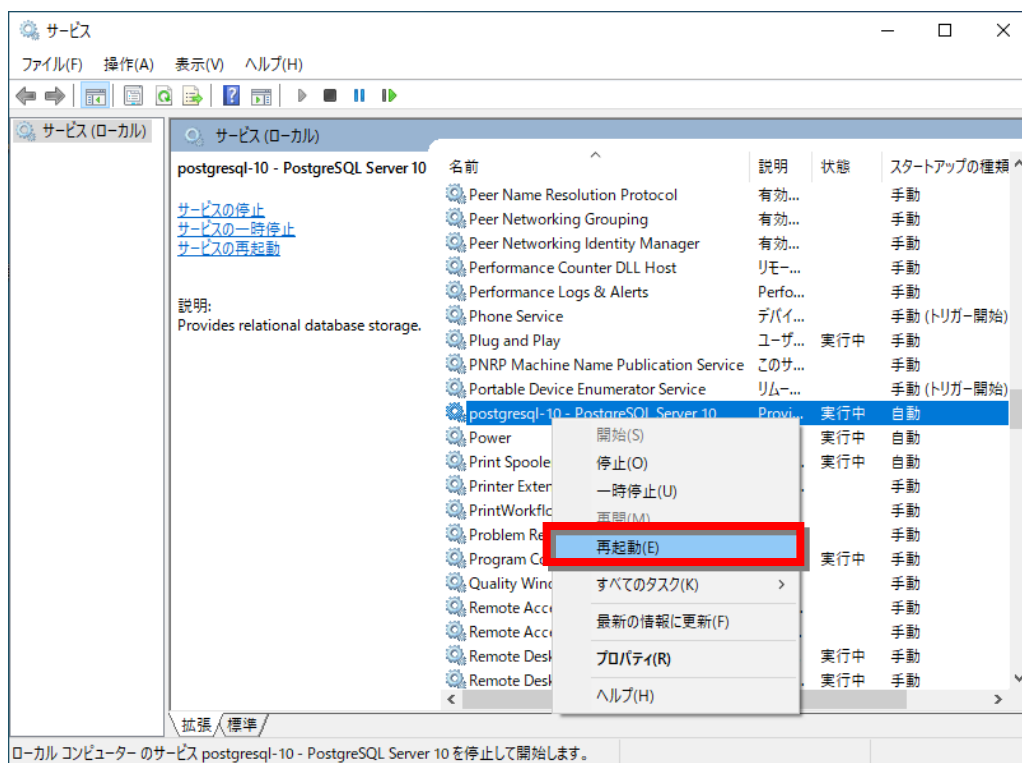
複数を一括設定する場合、IP アドレスが自動割り当ての場合は、共通しているアドレス部分(ネットワークアドレス)を使用して1行で設定を行います。

例:192.168.0.0/16 や 192.168.128.0/24 のように指定します。

不明な場合は、ネットワーク管理者へご確認ください。

3. 「pg_hba.conf」ファイルを保存して閉じます。
4. 稼働中の“データベースサーバー”に対して、これまでの設定を反映させるためにサービスの再起動をします。「スタート」ボタン—「Windows 管理ツール」—「サービス」でサービスの一覧を表示します。

5. 名前「postgresql-10 - PostgreSQL Server 10」を右クリックして「再起動」をクリックします。

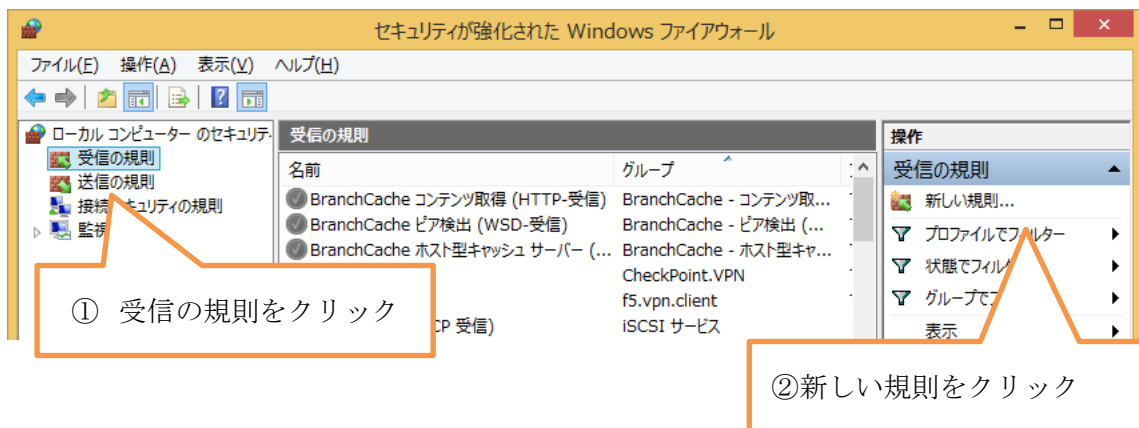


6. 再起動したら「×ボタン」を押して「サービス」を閉じます。

3 Windows ファイアウォールの設定

ローカル接続以外の複数台で「消防くん」をご利用になる場合は、Windows ファイアウォールの設定が必要となります。

1. Windows のコントロールパネルを開きます。
2. システムとセキュリティ、Windows ファイアウォール を順に開き、「詳細設定」をクリックします。
3. ローカルコンピュータのセキュリティから、「受信の規則」をクリックし、「新しい規則」をクリックします。



4. 下記のように設定を追加してください。

- ・規則の種類で、「ポート」を選択して「次へ」をクリック

どの種類の規則を作成しますか？

プログラム(P)
プログラムの接続を制御する規則です。

ポート(O)
TCP または UDP ポートの接続を制御する規則です。

事前定義(E):
BranchCache - コンテンツ取得 (HTTP を使用)
Windows エクスペリエンスのために接続を制御する規則です。

カスタム(C)
カスタムの規則です。

・プロトコルとポートの指定

プロトコルで「TCP」を選択し、「特定のローカルポート」を選択して、ポート番号として 5432 を入力し、「次へ」を押します。

TCP と UDP のどちらにこの規則を適用しますか？

TCP(T)
 UDP(U)

すべてのローカル ポートと特定のローカル ポートのどちらを対象にこの規則を適用するかを選択してください。

すべてのローカル ポート(A)
 特定のローカル ポート(S):
例: 80、443、5000-5010

・操作の指定

「接続を許可する」を選択して「次へ」を押します。

接続が指定の条件に一致した場合に、どの操作を実行しますか？

接続を許可する(A)
IPsec を使用して保護された接続と保護されていない接続の両方を含みます。

セキュリティで保護されている場合のみ接続を許可する(C)
IPsec を使用して認証された接続のみを含みます。接続は、IPsec プロパティ内の設定と接続セキュリティ規則ノード内の規則を使用して、セキュリティ保護されます。

接続をブロックする(K)

・プロファイルの指定

通常はそのまま「次へ」を押してください。

この規則はいつ適用しますか?

ドメイン(D)
コンピューターがその企業ドメインに接続しているときに適用されます。

プライベート(P)
コンピューターが自宅や職場などのプライベート ネットワークに接続しているときに適用されます。

パブリック(U)
コンピューターがパブリック ネットワークに接続しているときに適用されます。

・名前の指定

名前に PostgreSQL と入力し、「完了」 ボタンを押してください。

名前(N):

説明 (オプション)(D):

・ Windows ファイアウォール以外のセキュリティソフトの設定

設定方法は、各セキュリティソフトにより異なりますので、お客様ネットワークのセキュリティ管理者様にご確認ください。

4 データベース管理ツールのインストール

データベース管理ツールは、「消防くん」で使用するデータベースを管理するためのプログラムです。

データベース管理ツールは、PostgreSQLを導入したサーバーにインストールして頂く必要があります。

①インストールメニュー画面を再度表示します。



②[3.データベース管理ツール]ボタンをクリックします。

③インストール先を選択し、表示される画面に従ってインストールを行ってください。

データベース管理ツールの起動

デスクトップに作成されるデータベース管理ツールのアイコンより、データベース管理ツールを起動してください。

ユーザー情報とライセンスの登録

管理ツールの初回起動時、シリアル番号の登録が必要になります。ユーザー情報の登録の際には、管理用のパスワードをお送りするために、有効なメールアドレスが必要となります。

別添の手順書に従って、シリアル番号を登録し、メールにて受け取ったパスワードを使用して、ユーザー情報とライセンスを登録してください。

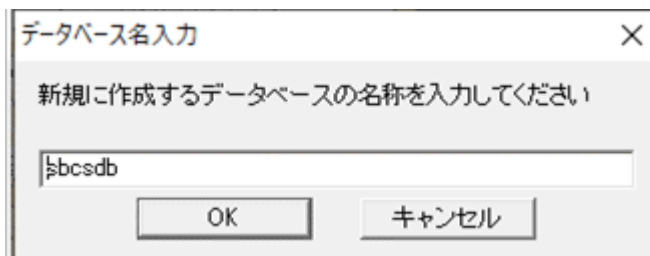
データベースの作成

[データベースサーバ]や[データベース管理ツール]のインストールが完了しても、消防くんを起動・使用できる状態ではありません。(共有データの保存先となるデータベースがありません。) そのため「データベース管理ツール」を起動し、データベースの作成と初期データのインストールを行ってください。

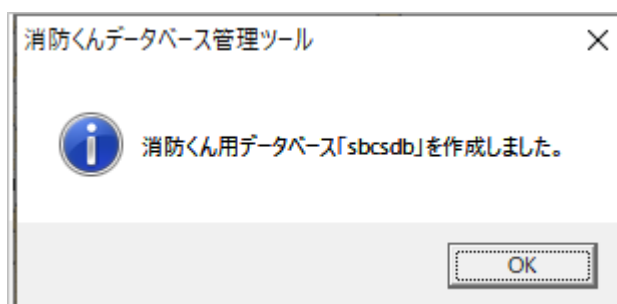
- ① 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「消防くん for Windows」→「データベース管理ツール」を順に選択します。
- ② 管理ツールの画面が表示されます。「消防くんデータベースを作成」ボタンをクリックします。



③ 半角英数のみでデータベース名を入力します。1つ目については標準名の”sbcsdb”が入力されていますので、そのまま作成します。



④ 作成後に以下のメッセージが表示されます。「はい」を選択し、消防くん(報告書作成・様式編集)の動作に必要な初期データのインストールを行ってください。



通常は数分以内に処理が終了します。処理が終了しない場合は、一度データベース管理ツールを終了し、本マニュアルの「データベースの動作確認」の項目の手順に従って、データベースの動作の確認を行ってください。

5 ユーザー（利用者）の登録

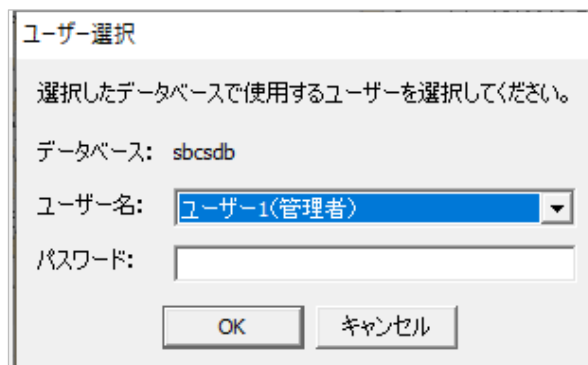
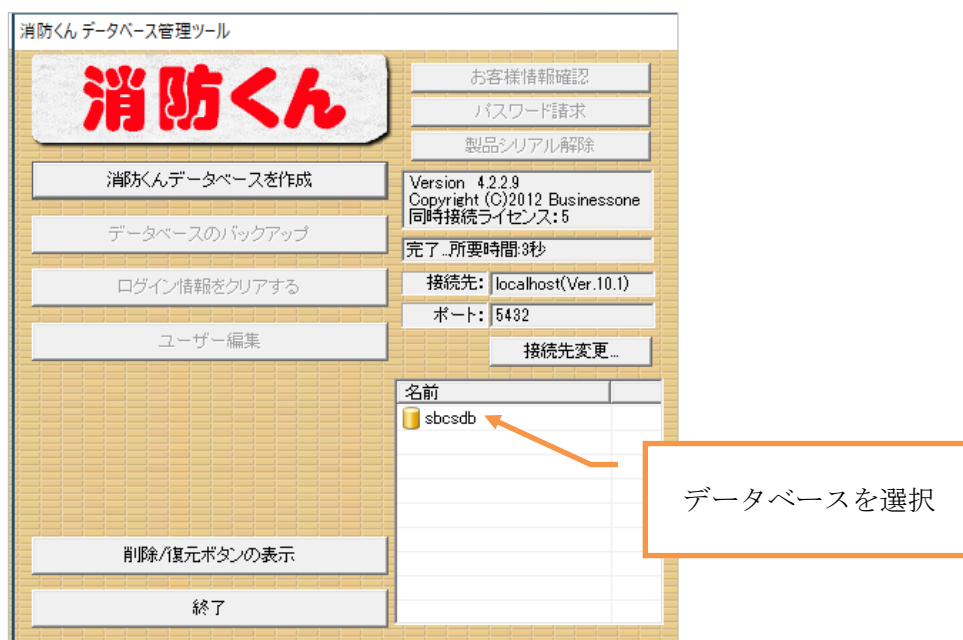
消防くん for Windows ではデータベースへの操作が重複しないように、ユーザー管理を行っています。

データベースを作成した時点で、利用可能なユーザー名として、「ユーザー1」～「ユーザー5」が登録されていますので、そのままご利用いただくことも可能です。

また、ユーザーごとに使用できる機能を制限することができます。

任意のユーザー名を登録したい場合や、ユーザーの追加を行う場合、また、ユーザーの権限を制限したい場合は、下記手順に従って登録を行ってください。なお、登録ユーザー数に制限はありません。

- ① 作成されたデータベース名を右の一覧から選択します。「ユーザー選択」が表示されますので、ユーザー名の選択とパスワード入力を行い、「OK」ボタンをクリックします。



- ② 「ユーザー編集」ボタンをクリックします。「ユーザー情報」が表示されますので、ユーザーを追加したい場合は「追加」ボタンを、既存のユーザーを変更したい場合は、変更するユーザーを選択して「変更」ボタンをクリックします。

ID	ユーザー名	権限	報告書作成	様式編集
1	ユーザー-1	管理者	フルアクセス	使用可
2	ユーザー-2	管理者	フルアクセス	使用可
3	ユーザー-3	管理者	フルアクセス	使用可
4	ユーザー-4	管理者	フルアクセス	使用可
5	ユーザー-5	管理者	フルアクセス	使用可

追加(A) 変更(C) 削除(D) 社外確認(B) 閉じる(ESC)

- ③ ユーザー名、パスワードを付加する場合は、パスワード欄・パスワード（確認用）欄を入力し、権限・報告書作成・様式編集の使用権限を選択し、OK ボタンで登録します。

ID	新規
ユーザー名	ユーザー名
パスワード	*****
パスワード(確認用)	*****
権限	管理者
報告書作成	フルアクセス
様式編集	使用可
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

「権限」「報告書作成」「様式編集」について

- 権限（管理者／一般）

「管理者」は下記機能が使用可能です。「一般」では使用できません。

データベース管理ツール	全機能
報告書作成	使用可能データ設定

- 報告書作成（フルアクセス／ファイル添付制限／参照のみ）

「ファイル添付制限」の場合、物件へのファイルの添付が制限されます。

「参照のみ」の場合、既存の報告書の参照のみが可能となります。

- 様式編集（使用可／不可）

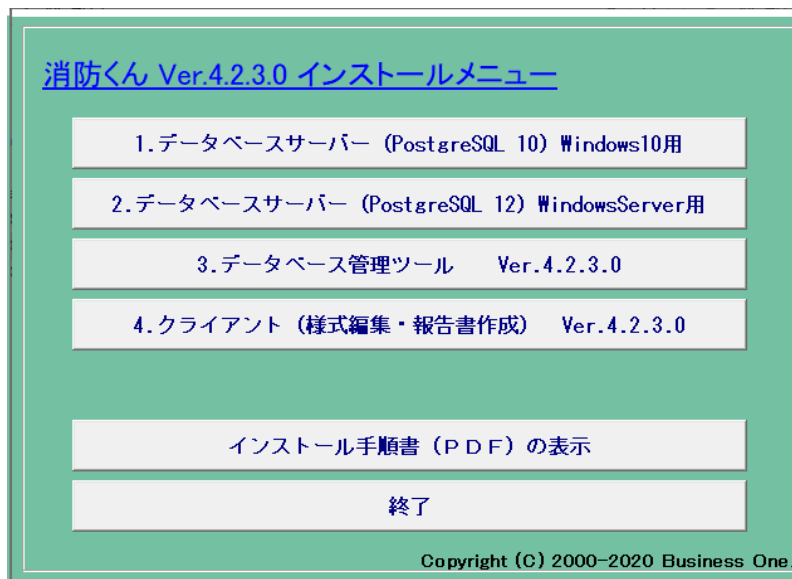
「不可」のユーザーは様式編集を使用できません。

2 クライアント(報告書作成・様式編集)のインストール

1 クライアントプログラムのインストール

新規に Version4 をインストールの場合

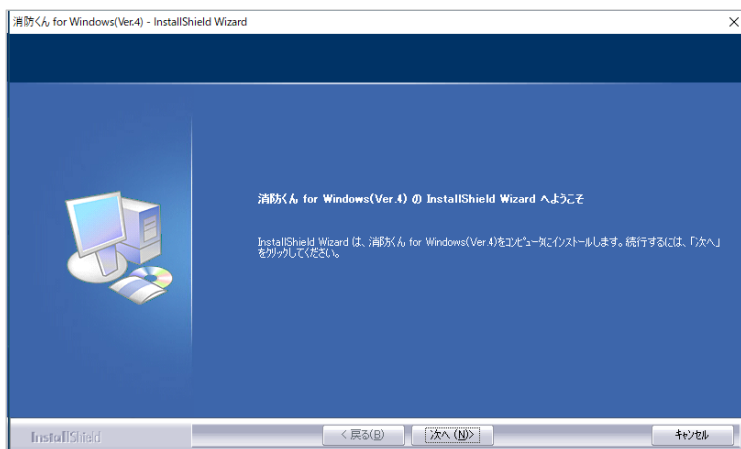
- ① 【消防くん for Windows セットアップ CD】を CD-ROM ドライブに挿入してください。
しばらくすると、以下のインストール項目の選択画面が表示されます。



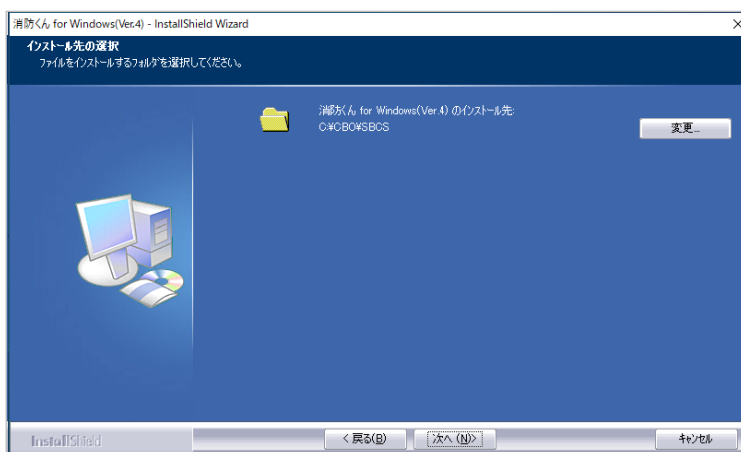
注)上の画面が表示されない場合は【マイコンピュータ】－【CD-ROM】ドライブ【CBOCD. EXE】を順に左でダブルクリックします。

- ② 「4.クライアント (様式編集・報告書作成)」ボタンをクリックします。

- ③ 「次へ」 ボタンをクリックします。



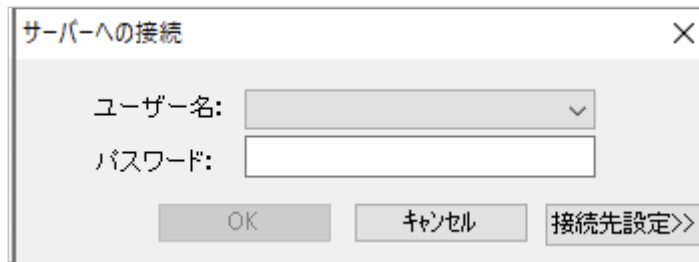
- ④ インストール先を選択し、「次へ」 ボタンをクリックします。



- ⑤ 「報告書作成」と「様式編集」の動作に必要なファイルがセットアップされます。

2 「消防くん」の起動とデータベースへの接続確認

- ① デスクトップに作成される、報告書作成のアイコンより、「報告書作成」を起動します。
- ② 「サーバーへの接続」画面でユーザー名を選択し、OK ボタンを押してください。



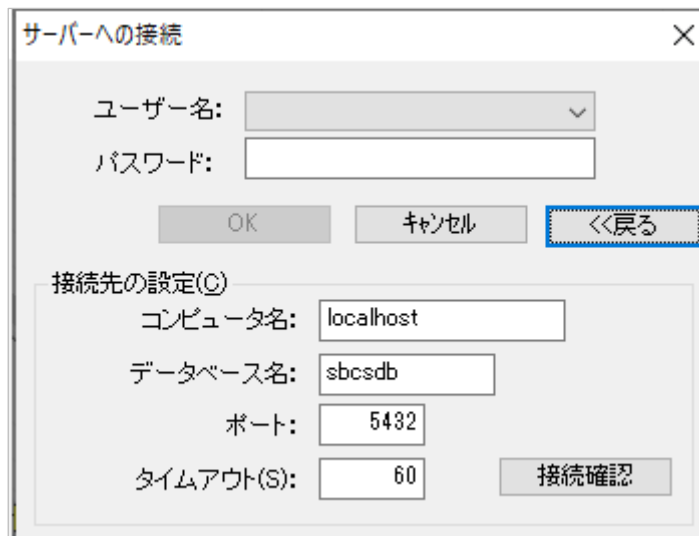
サーバーへの接続

ユーザー名:

パスワード:

OK キャンセル 接続先設定>>

- ③ ユーザー名が選択できない場合は、下記のように設定を行ってください。
 - (1). 「接続先設定」ボタンを押します。
 - (2). 接続先のコンピュータ名に、PostgreSQL を導入したサーバ名、または IPV4 アドレスを入力してください。データベース名を変更した場合は、データベース名も設定してください。



サーバーへの接続

ユーザー名:

パスワード:

OK キャンセル <<戻る

接続先の設定(C)

コンピュータ名: localhost

データベース名: sbcsdb

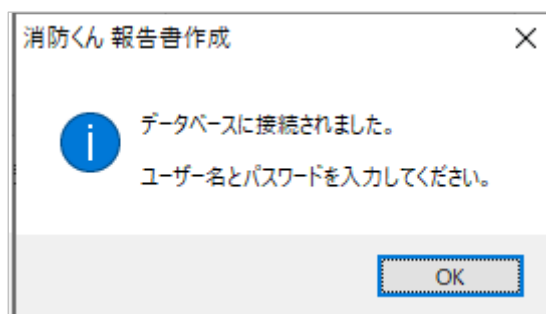
ポート: 5432

タイムアウト(S): 60

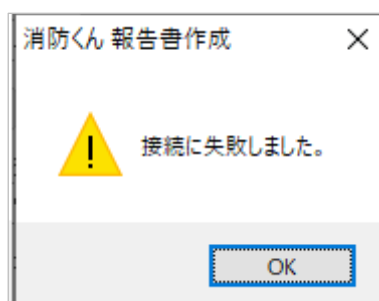
接続確認

- (3). 「接続先確認」のボタンを押してください。

(4).下記のように表示されれば、接続は成功です。ユーザー名を選択して、「OK」ボタンを押してください。



(5).正常に接続できなかった場合、下記のように表示されます。



この場合は、データベースサーバに正常に接続できない状態です。
データベースの導入が正常に終了している場合は、本マニュアルの「データベースアクセス範囲の設定」および、「セキュリティの設定」を再度ご確認ください。

3 消防くん データベース管理ツールの操作

1 データベース管理ツールの操作

1.1 データベース管理ツールの起動

「スタート」-「消防くん for Windows」-「データベース管理ツール」を選択します。
以下の画面が表示されます。

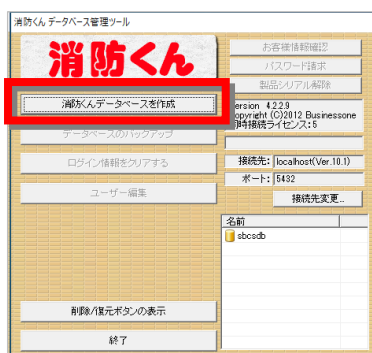


※動作しない場合、設定ファイルの内容を確認してください。

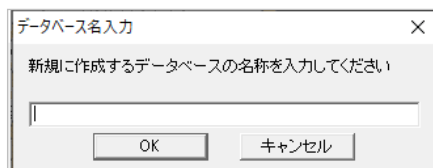
1.2 消防くん用データベースの作成

消防くん用データベースを新規に作成する方法を説明します。新規に導入された場合やバックアップファイルからの復元を行う場合に、データベースの作成を行う必要があります。

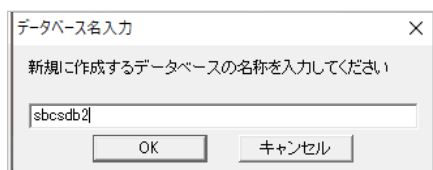
- ① ボタン「消防くんデータベースを作成」を押下して下さい。



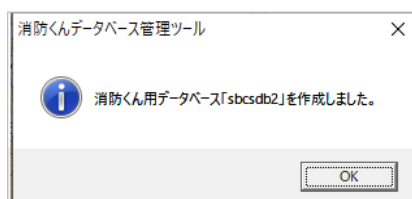
- ② データベース名入力ダイアログが表示されます。



- ③ データベース名にはアルファベット、数字を使用し、同じ名前のデータベースが存在しないことを確認し、「OK」ボタンを押して下さい。



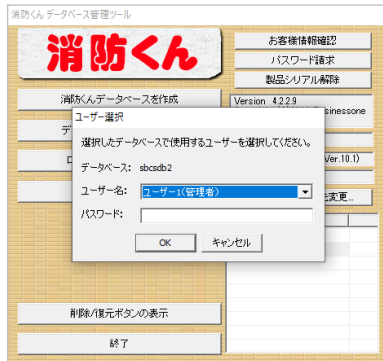
- ④ データベースが作成されると以下のメッセージが表示されます。「OK」ボタンを押下して下さい。



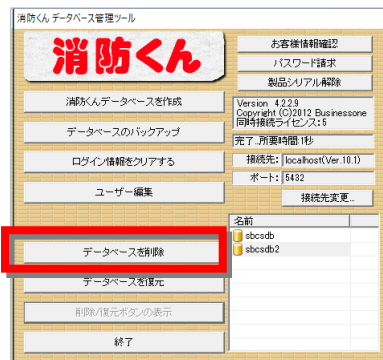
1.3 データベースの削除

消防くん用データベースを削除する方法を説明します。削除したデータベースを元に戻すことはできません。確実に不要なデータベース以外は削除しないで下さい。

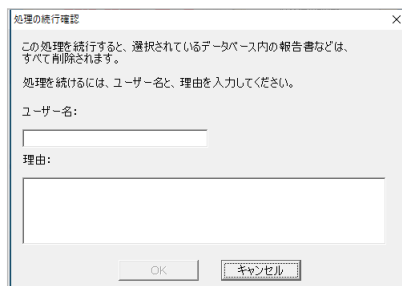
- ① 削除するデータベースをリストの中から選択し、「管理者」のユーザーを選択してください。



- ② 「削除/復元ボタンの表示」を押すと「データベースを削除」ボタンが押せるようになります。「データベースを削除」をクリックしてください。



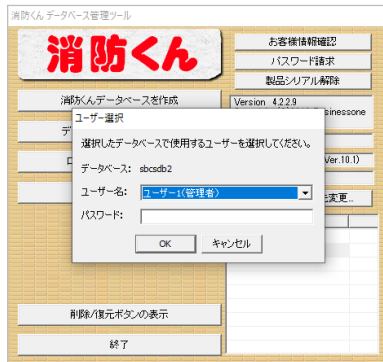
- ③ 確認画面が表示されます。ユーザー名と理由を入力して、「OK」ボタンを押して下さい。データベースが削除されます。



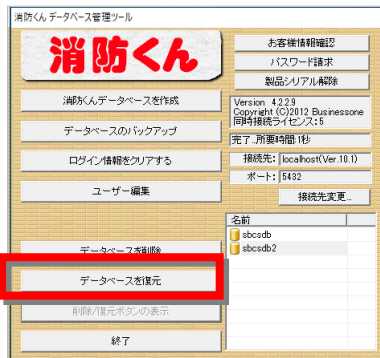
1.4 データベースの復元

ここではデータベースの復元の手順を説明します。

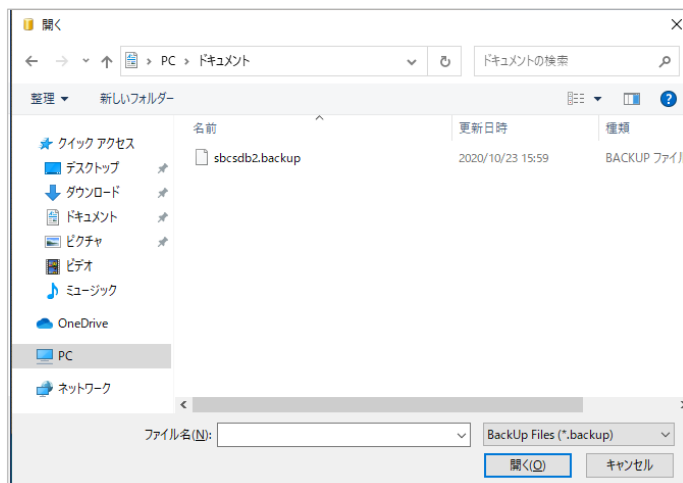
- ① 復元を行う対象のデータベースをリストより選択し、「管理者」のユーザーを選択してください。



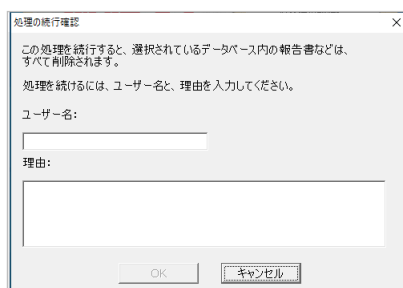
- ② 「削除/復元ボタンの表示」を押すと「データベースを復元」ボタンが押せるようになります。「データベースを復元」をクリックしてください。



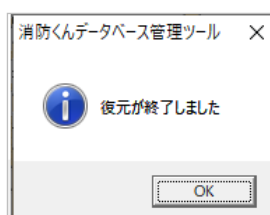
- ③ ファイルダイアログが表示されます。バックアップファイルを選択し、「開く」ボタンを押して下さい。



- ④ 確認画面が表示されます。ユーザー名と理由を入力して「OK」ボタンを押してください。復元作業が開始されます。



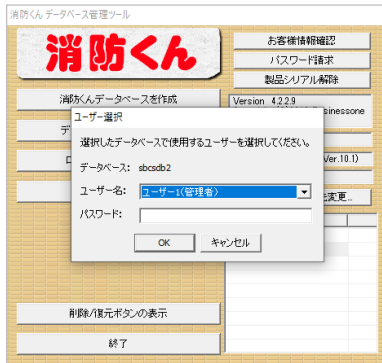
- ⑤ 復元作業実行中は終了以外のボタンが無効になります。
復元作業はバックアップファイルのサイズによりますが5～10分程度かかります。
- ⑥ 以上でデータベースの復元は完了です。



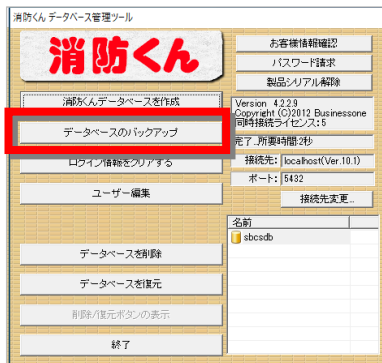
1.5 データベースのバックアップ

ここではデータベースのバックアップの手順を説明します。データベースのバックアップを作製して多くことで、バックアップ作製時点のデータベースが復元できます。

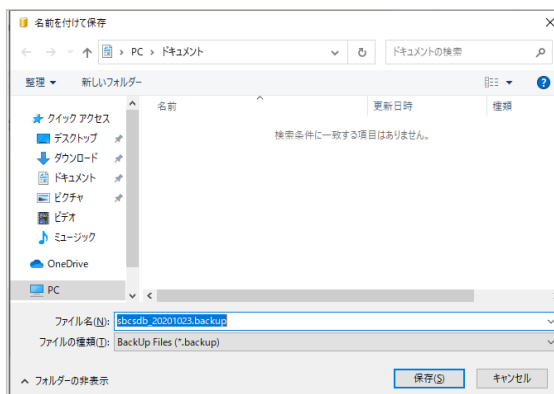
- ① バックアップを行うデータベースをリストの中から選択し、「管理者」のユーザーを選択してください。



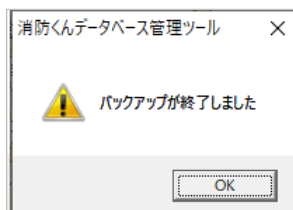
- ② 「データベースのバックアップ」ボタンを押して下さい。



- ③ ファイルダイアログが表示されます。バックアップファイルの保存場所を選択し、保存するファイル名を入力して、「保存」ボタンを押して下さい。



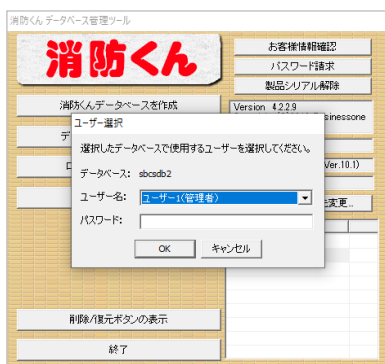
- ④ 以上でデータベースのバックアップは完了です。「OK」ボタンを押して下さい。



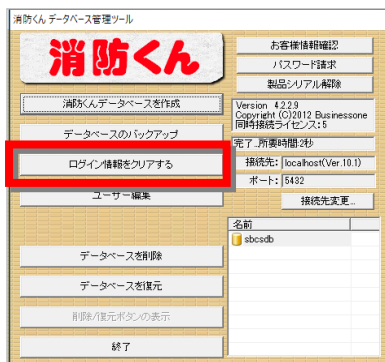
1.6 ログイン情報のクリア

消防くんデータベースにクライアント側（報告書作成・様式編集・労務計画）ソフトでログイン後に、正常終了していない場合、そのユーザーについては再ログインできません。選択中のデータベースの全ユーザーのログイン情報を消去し、再度ログインできる状態に戻します。

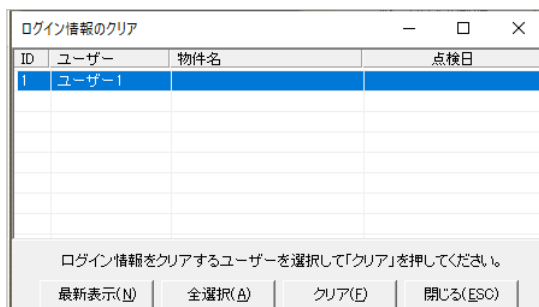
- ① ログイン情報をクリアするデータベースをリストの中から選択し、「管理者」のユーザーを選択してください。



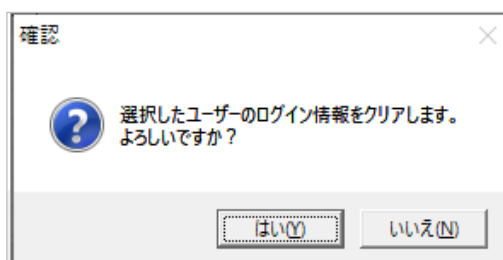
- ② 「ログイン情報をクリアする」ボタンを押してください。



- ③ クリアするユーザーを選択して「クリア」ボタンを押してください。



- ④ 確認画面が表示されます。「はい」を押すとログイン情報をクリアします。



4 自動バックアップの設定方法

1 バックアップスクリプト「PsqlBackUp5.bat」の確認

1.1 「データベースバックアップスクリプト」とは

消防くんで使用される PostgreSQL データベースをバックアップするコマンドを記述した、ファイルになります。このファイルを「Microsoft Windows タスクスケジューラ」へ設定することで定期的に決まった時間にバックアップを行う事が出来ます。(以下バッチファイルと記述)

1.2 「PsqlBackUp5.bat」の確認

バッチファイル(PsqlBackUp5.bat)について利用される環境に合わせて記述内容を変更します。(このバッチファイルは、データベース管理ツールのインストール先にあります。通常は「C ドライブ」内の「CBO フォルダ」の「SBDBMente フォルダ」となっております。)

① PostgreSQL インストールフォルダの設定

バッチファイルを Windows 機能のメモ帳などテキストエディタで開き(バッチファイルを右クリックし、「編集」を選択します。)、以下の記述内容を環境に合わせて変更します。(バッチファイル: 12行目)、

```
SET PSQLDIR="C:\Program Files (x86)\PostgreSQL\10\bin"
```

※記述は 64bit 版 PC の C ドライブへ PostgreSQL をインストールした場合

② バックアップフォルダの設定

(予め、最もディスクの空き容量があるドライブにバックアップファイル用のフォルダを作成しておいてください)

実際にバックアップファイルが格納されるフォルダパスを指定します。(バッチファイル: 15行目)

```
SET BACKUPDIR="C:\CBO\消防くんデータバックアップ"
```

※記述は C ドライブの CBO フォルダの中に[消防くんデータバックアップ]フォルダを作成している場合

③ データベース名の設定

標準とは異なる名称でデータベース名を作成していた場合、そのデータベース名を指定します。

```
rem バックアップデータベース名
SET BACKUPDBNAME="sbcsdb"
```

④ 削除期間の設定

バックアップファイルは設定によってディスク容量を圧迫する為、バックアップを行ったタイミングで古いファイルを削除する月を指定します。(バッチファイル:48 行目)

```
forfiles /p %BACKUPDIR% /D -30 /m 2??????.backup /c "cmd /C del @file"
※赤字で記述される数値を変更します。
```

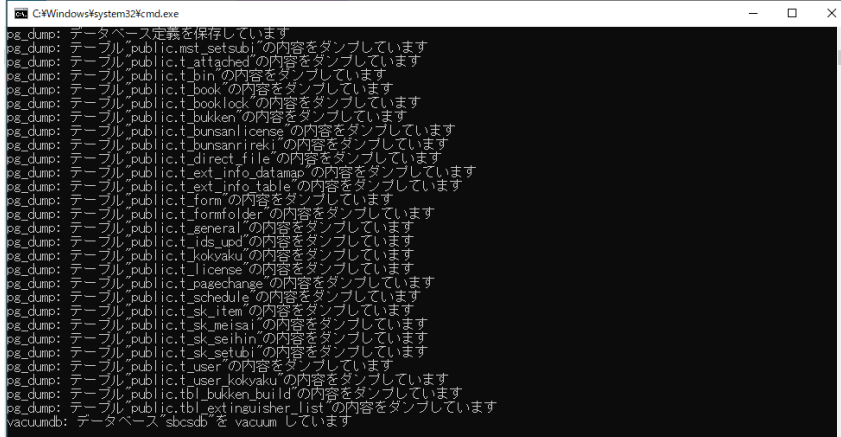
30 を指定した場合、現在日付より 30 日以上古いデータが削除されます。

1.3 バッチファイルの起動確認

サーバー構成の設定まで行った状態で1度正常に実行されるか起動します。

「PsqlBackUp5.bat」ファイルをエクスプローラよりダブルクリックします。

実行されますと以下の画面が表示されます。



```
C:\Windows\system32\cmd.exe
pg_dump: データベース定義を保存しています
pg_dump: テーブル 'public.met_setsubj' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_attached' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_bin' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_book' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_booklock' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_bukken' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_bunsanlicense' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_bunsanireki' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_directfile' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_ext_info_datamap' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_ext_info_table' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_form' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_formfolder' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_general' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_rds_upd' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_kokvaku' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_license' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_pagechange' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_schedule' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_sk_item' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_sk_meisai' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_sk_seihin' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_sk_setsubj' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_user' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.t_user_kokvaku' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.tbl_bukken_build' の内容をダンプしています
pg_dump: テーブル 'public.tbl_extinguisher_list' の内容をダンプしています
vacuumdb: データベース 'sbcsdb' を vacuum しています
```

正常に動作しますとバックアップが動作し、テーブルバックアップ結果が表示されます。

※動作していない場合、パスワード入力待ちとなる、画面が数秒で閉じる等、バックアップ処理が実行されませんので、必ず動作するか確認してください。

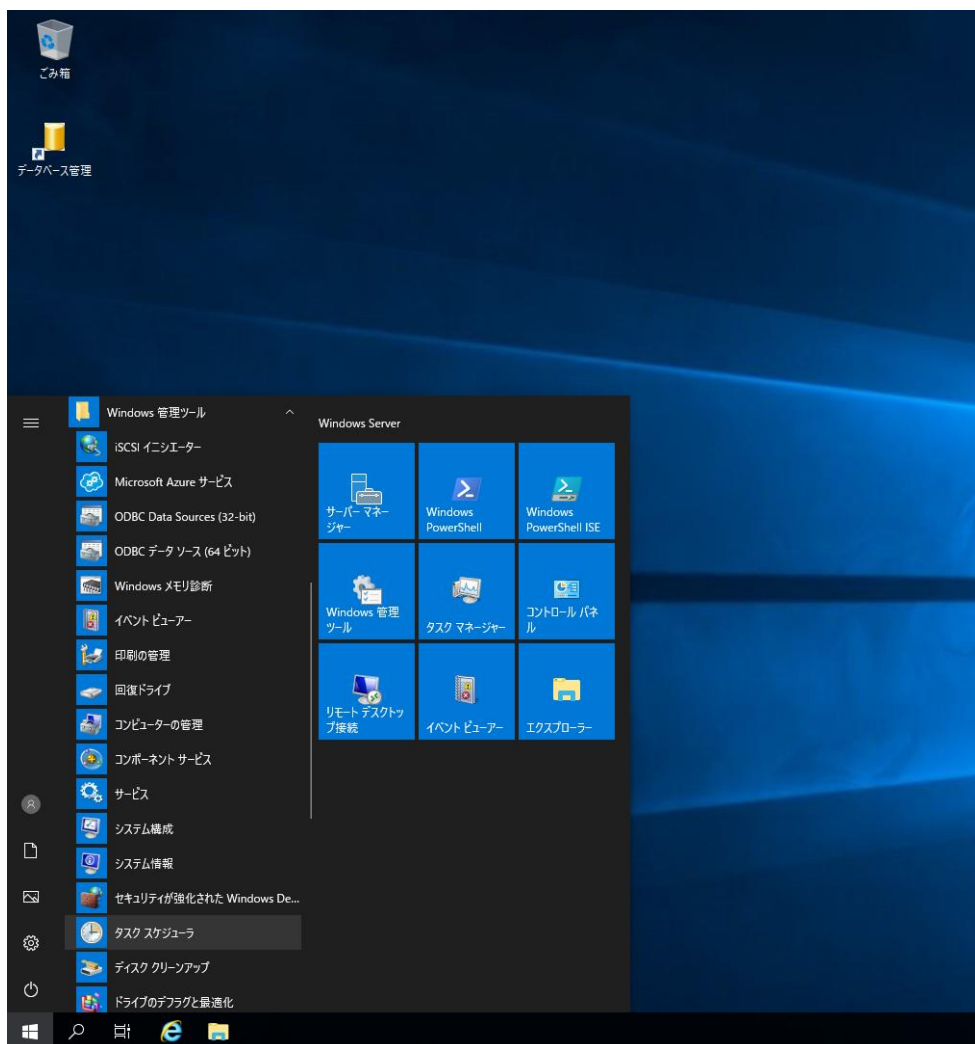
2 スケジュール登録

2.1 タスクスケジューラの追加

自動バックアップを行う Microsoft Windows タスクスケジューラ (記載内容は Windows Server 2019) の追加方法について説明します。

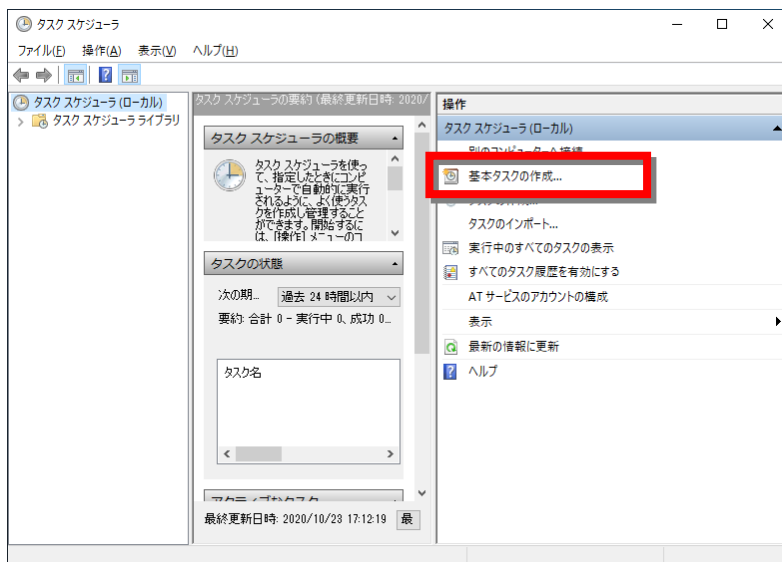
① タスクスケジューラの起動

「スタート」→「Windows 管理ツール」→「タスクスケジューラ」を実行します。



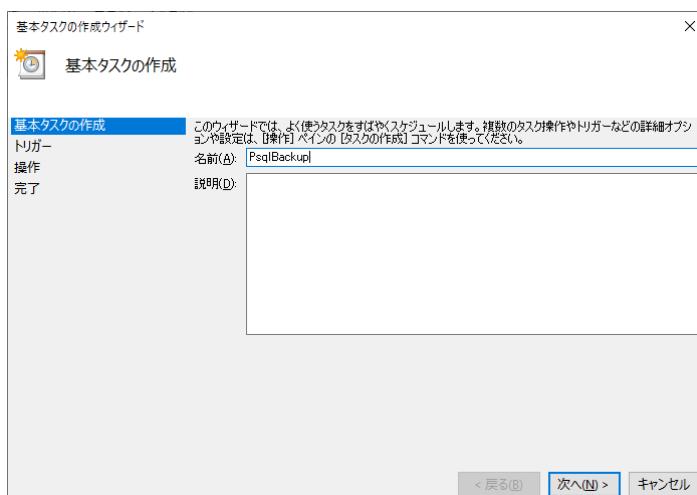
② 基本タスクの作成

実行されますと以下の画面が表示されますので「[基本タスクの作成](#)」を押下します。



③ タスク名称の指定

実行するタスク名称を設定し、「次へ」ボタンを押下します。



④ 実行時間、実行間隔の指定

自動バックアップを行う時間、実行する間隔を指定し、「次へ」ボタンを押下します。

実行時間についてはデータ量によりますが、10分～20分程度の見込みです。

※バックアップ実行時間帯は、システムへアクセスされない業務時間外を設定するようにお願い致します。

基本タスクの作成ウィザード

タスクトリガー

基本タスクの作成

いつタスクを開始しますか?

毎日 (D)

毎週 (W)

毎月 (M)

1回限り (O)

コンピューターの起動時 (C)

ログオン時 (L)

特定イベントのログへの記録時 (E)

トリガー

毎日

操作

完了

< 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル

基本タスクの作成ウィザード

毎日

基本タスクの作成

トリガー

開始 (S): 2020/11/01 1:00:00 タイムゾーン間で同期 (Z)

毎日

間隔 (I): 1 日

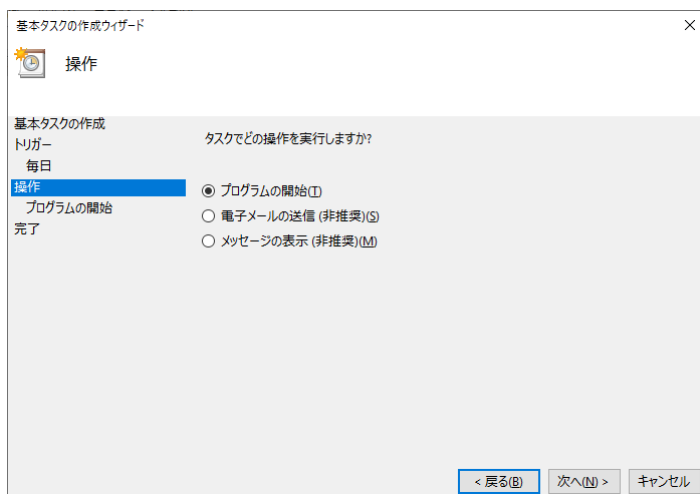
操作

完了

< 戻る (B) 次へ (N) > キャンセル

⑤ 操作の指定

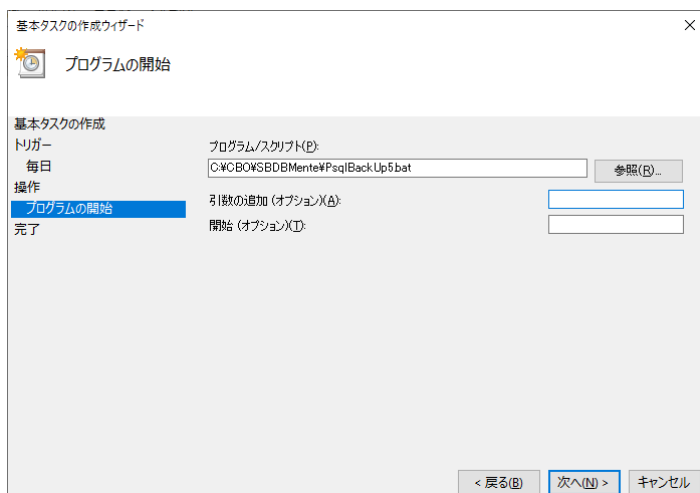
「操作」で「プログラムの開始」を選択し、「次へ」ボタンを押下します。



⑥ 実行プログラムの指定

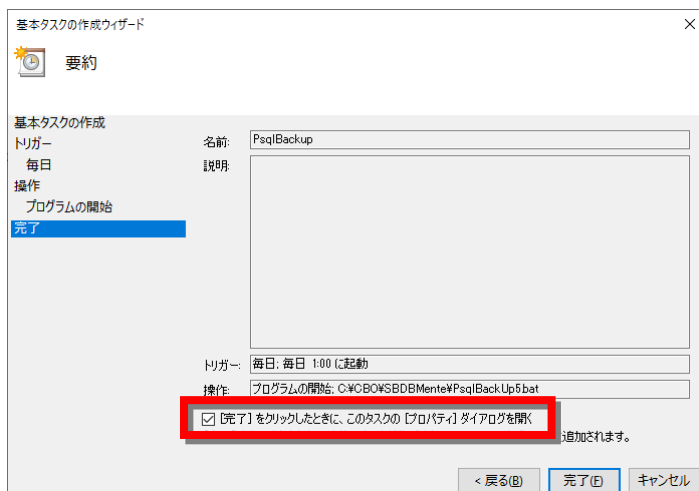
「参照」ボタンを押下し、ファイル参照ダイアログを表示します。

バックアップを行うスクリプト「PsqlBackUp5.bat」を選択し、「次へ」ボタンを押下します。



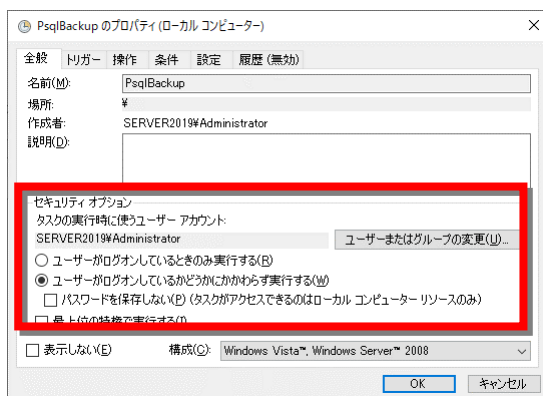
⑦ 設定の完了

「[完了]をクリックしたときに、このタスクの[プロパティ]ダイアログを開く」にチェックを入れて「完了」ボタンを押下してください。



⑧ 設定の完了

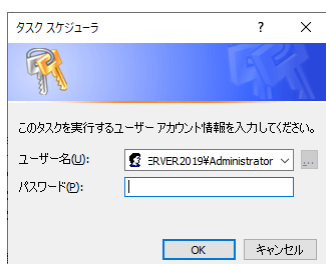
Server をログオフした状態でも自動バックアップが行われるように、ログインユーザー、パスワードを指定します。



「タスクの実行時に使うユーザーアカウント」を選択します。

※こちらは管理者のユーザー／パスワードを指定します。

「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択して「OK」ボタンを押下します。



パスワードの入力を求められるので、入力して「OK」ボタンを押下します。

2.2 バックアップデータの復元

「消防くん データベース管理ツール」より、復元が可能です。